

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2015. 2
No.258

“二〇一五年の思い『育』”

私は、この二〇一五年のイナテックへの思いに『育』という言葉がふさわしいと思いました。

お客様の大增産を前にして、それを満足して立ち上げるには、やはり『人』が重要であると考えたからです。

それぞれの階層が次のポジションをめざして教育を受けなければならないと考えております。

今までは、新しいポジションについてから後追いで教育していました。中途半端な状態で満足に仕事を教えていないのに仕事をお願いしていたのが実態です。

その状態を少しでも改善したいと思いましたが。

『育』という言葉には、“教える側”と“教えられる側”が必ず存在致します。

教える側（上司・教育係）は本当に教えられる側のレベルに合った教え方であつたらうか、と内省していただきたいと思っております。今年の『育』では、“育てきる”にしたいと思っております。今までは“教えた、教えた”で教えられる側の能力やレベルのせいにして済ましていたような気が致します。

教育のレベルを上げることも大切ですが、まずは教えられる側のレベルで育てること、そして一步一步確実に教えられる側が成長しているのを感じながら教育に臨んでいただきたいと思致します。

また、“教えられる側”の『育』もあります。“教えられる側”の『育』は、“育ちきる”ことです。こちららも中途半端な思いでなく学ぶ気持ち、学ぶ姿勢が大切だと思っております。「育ちきる」覚悟が必要です。

「育てきる」と「育ちきる」の両輪で始めて効果的で有効な教育が成立するものと考えております。

イナテックの企業理念で申しています。『真剣勝負』と“一所懸命”です。ぜひ今年は『育』元年のつもりで明るく元気よく頑張りましょう。

“AW協働会新年交礼会会長挨拶”

私はAW協働会会長を仰せつかっております。二〇一五年一月八日にAW役員の皆様、AW協働会の皆様（約二百名）の前であいさつをさせて頂いたものの一部を紹介させていただきます。

『（前略）詩人の坂村真民先生は、
「新しい年を迎えるには、新しい心構えがなく
てはならぬ。決してただ漫然と迎えてはな
らぬ。」

と、おっしゃいました。私（稲垣）が新年を迎えて思いますことは、「逆境にあつて悲観せず順境にあつて慢心せず」という格言でございます。これは我々トップ自らが現場に行つて現場の人と話をし、現場をしっかりと見て、今やるべきことに肅々と取組んでいくことだと思致します。

安全第一、品質最優先という言葉を、我々としては壊れたレコードのように、同じことを何度も繰り返し返して社員の方々に伝えなければいけないと思います。

“また同じことを言っているな”と思われるくらい言い続ければ、社員の意識が変わり、行動に表れてくると考えます。

今一度『安全第一・品質最優先』を徹底して参ります。

……(後文略)

“有言実行”、自分のこととして、この一年頑張りますので、よろしくお願い致します。

“『いつか』なんて来ない”

家事セラピスト山田江美

今我々は『トヨタの片付け』を皆さんに勉強していただいています。そして、実行しようとしています。

物に執着せずに、何かを“手放す”“手離す”と考えると少しは気が楽になるものです。そんな山田江美さんのコラムを紹介します。

片付けるとき、いる、いない、を分けるとき「いる」と決めて残すモノはいつ使うから残す！と決めると、とてもすっきり感が味わえるようになります。

例えばビデオテープ。もう家にはビデオデッキはない。捨てようか。DVDに移し替えようか……。

もし移し替えるなら、それはいつ？

そしてそれをいつ観る？……というように、残すのであれば使うことを前提に。

“いる”と決めてもすぐに行動できなければ、それは今の自分にはもう必要ないという目安もなります。

そして、決めた行動を実行すると気持ちもすっきりし、モノの価値も実感できます。

更には大切にしたいと思ったり、満足すれば手放すこともできるでしょう。

“いつか”なんて来ない”
思い切つて、使わないモノは手放してみませんか

今年が2Sを徹底する年でもあります。“一ヶ月”“半年”“一年”と区切り『手離そう』ではありませんか。買い過ぎ・取り過ぎのような失敗を繰り返さないことが大切です。

さあ！手離すとすっきりしますよ。再出発しましょう。

二二

都来眼前事、知足者仙境、不知足者凡境。總出世上因、善用者生機、不善用者殺機。

都て眼前に來たるの事は、足ることを知る者には仙境にして、足ることを知らざる者には凡境なり。總て世上に出づるの因は、善く用うる者には生機にして、善く用いざる者には殺機なり。

一 眼前に來たるの事——目前に差し迫つて來るものこと。衣食住など。二 世上に出づるの因——世の中に現われるものこと。因縁。「因」は因縁。因と縁が和合してものことを生ずる。三 生機——生かす働き。

すべて目前に差し迫つて來るものごとについては、満足することを知っている者にとっては理想郷として映るが、満足することを知らない者にとっては俗世間として見える。また、すべて世の中に現われて來るものごと。因縁については、これを善用する者にとっては万物を生かす働きをするが、これを善用しない者にとっては万物を殺す働きをするものである。